授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2480 号

Does endoscopic retrograde cholangiopancreatography carry higher risk for patients 90 years and older? A single institution retrospective study

90 歳以上の患者（超高齢者）への ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）は高いリスクとなりうるか？単一施設の後方視的検討

荻原　伸悟（おぎわら　しんご）

博士（医学）

論文内容の要旨
90 歳以上の患者（超高齢者）に対する内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)がしばしば必要となる。超高齢患者に対する ERCP の安全性は、内視鏡医にとって主要な関心事である。70 歳代の患者と比較して、90 歳代患者の ERCP の安全性に関して後方視的に検討した。 2012 年 1 月から 2019 年 10 月まで、当院で ERCP を施行した 90 歳以上 （グループ A) 66 件と 70 歳代 （グループ B） 43 件の 2 群に分け、患者背景および手順、有害事象を含む項目を統計学的に比較検討した。 グループ A(平均年齢:92.3±2.1 歳)はグループ B （平均年齢: 75.1±2.7 歳)と比較すると著しく PS（performance status）が悪く(median: 3 vs 0; P<0.001)および ASA（American Society of Anesthesiologists classification）でも有意差が認められた(中央値: III vs II;P<0.001)。心血管、脳血管、腎、運動器の併存疾患の割合は、グループ A はグループ B よりも有意に高かった(87.88% vs 67.44%; P=0.0094)。グループ A は、グループ B よりも良性疾患の患者を多く認めた(90.91% vs 76.74%; P=0.040)。反対にグループ B は、悪性疾患の割合が多かった(31.82% vs 53.54%;P=0.041)。緊急 ERCP の割合はグループ A がグループ B より高かった(71.70% vs 29.73% ;P<0.0001)。有害事象はグループ間で有意差は認められなかった(15.15% vs 11.63%;P=0.602)。同じく、死亡率も群間差を認めなかった(1.52% vs 2.33%;P=0.758)。 ERCP の適応は、対象患者が単に超高齢であることで決定されるべきではないと思われた。ERCP の際に、内視鏡医が消化管穿孔に対し最大限の注意を払えば超高齢者であっても ERCP は必ずしも高いリスクも伴うとは限らないと考えられた。